



**●Tackle Guide**  
東京湾でのシロギス釣りは胴つき仕掛けが主流だが、相模湾ではテンビン仕掛けが主流だ。「胴つきでも釣れないことはないと思うけど、やっぱりこっちはテンビンです」と仲乗りさん。「なかなか市販品にはないけど、ハリス0.8号で全長1.2メートルと長めの仕掛けがいいよ」と教えてくれた。自作派の方はぜひ参考に。

**ハモノ狙いも面白そう**  
時折パタパタッと釣れるタイミングもあるが右舷中心。ツときてこれはミニホウボウ。続いて同様にしてシロギス、ヒイラギとゲスト交じりながら3連釣。なんだ釣れるじゃん！なんて思ったが、そんなにうまくことが運ぶはずもなく、その後はタンマリの時間が続いた。



▲シロギスはテクニカルなところも楽しい



▲相模湾で人気の小物釣り、シロギスが復調

# 相模湾のシロギス急上昇 今年の夏は数釣りに期待

●相模湾茅ヶ崎港発！茅ヶ崎沖

フィッシングライター 相川晃 Akira Kasukawa

いや〜何年ぶりのことだろう。5月下旬、相模湾のシロギス好釣！の報が届いた。相模湾のシロギスは毎年1月2日に解禁し、ひと昔前は箱根駅伝のランナーと陽光きらめく海に浮かぶキス船が西湘の正月の風物詩となっていた。今でも解禁日は変わらないが、ここ何年か1月に出国する船はほとんどなく、シロギスの盛りである夏になってもチラホラとその姿を見る程度、釣果情報もあまり芳しくはなかった。

**ウネリがちょっと心配**  
当日のシロギス船には16名の釣り人が乗り込んだ。とある船長から数年前、

「最近シロギス人気ないんだよな〜」なんて嘆き節を聞かされたが、どっこいやつぱり釣れていればお客さんは集まるもの。とくにこの日はカッブルやビギナー連れの釣行者が多く、沖釣り入門に最適な釣り物の一つと再認識した。出船前に船長に釣況を尋ねると、

「今年はいいいみたいですよ。80尾超えの日もありましたしただ今日はウネリが入っているからどうかな？」と期待と不安の入り交じるお言葉。確かに当日は風波は穏やかだったが、ウネリは高く時折消波ブロックを越える波しぶきが舞い上がっていた。それでも釣り自体には全く支障がない程度で、東へ10分ほど走った茅ヶ崎沖で釣り開始となった。水深は7メートルほどのことで、この日はこの後も7

〜10メートルの浅場での釣りに終始した。開始早々あちらこちらでリールが巻かれ、容姿端麗なシロギスが釣れ上がる。朝イチはまずまずのスタートだ。ビギナーとおぼしき方には仲乗りさんからエサ付け、キャスト方法、サビキ方のアドバイスがある。

「エサは通し刺してハリスまでコキ上げたほうがズレにくいし、ハリが見えづらいから食いがいいですよ」という説明にはなるほどと合点がいった。

順調にシロギスが釣れ、カメラを持って船内を回る私も「このままいけば早めに竿が出せそう」なんて思っていたのだが、今日のシロギスはシャイな恥ずかしがり屋が多いのか、抜き上げシーンを撮ろうとするとポチャン、ニコパチを撮ろうとするとポロツで、釣果の割になかなかコマが進まない。「また今度釣れたらお願いします」なんて言っていたら食いが渋くなった。

「潮色が暗いのでウネリで底荒れもしているのかもしれない」

11時を過ぎると南風が強まってきた。シロギスなどの小物釣りには厳しい条件だが、そんな中、右舷の間で歓声が上がる。駆け付けてみるとちよと仲乗りさんがタモ入れた直後。タモの中にはソゲ級ではあるがヒラメが収まっていた。ハリ掛かりしたシロギスをウバ食したようだ。この直後にはミヨシでソフトルアーを投げた方にも小ソゲが釣れた。船長に話を聞くと、

「ハモノを狙えばヒラメやマゴチが釣れますよ」とのことだから、空いている平日に四隅の席が取れたらハモノ狙いも面白そうだ。

その後も風は強くなる一方エボシ岩が多少は波避けの役目を果たしてくれるが、それでも白波が立ち釣りづらい。そんな後半戦も右舷は食いが立つ場面もあったよう。3連釣なんて声も聞こえたが、前日までの好調ぶりには遠く及ばない釣果でこの日は沖揚がりとなった。

「やっぱりウネリと濁り潮がよくなかったね。後半は海も悪

**知得! Tips and Tricks**  
**ジャリメエサの付け方のコツ**

シロギスのエサは東京湾ではアオイソメだが、相模湾ではジャリメが定番。ジャリメはアオイソメと違い頭を切らなくても食いは変わらないし、頭があったほうがエサ持ちがよく、連発時には同じエサで何尾も釣れたりする。ただしチョン掛け（食いがいいときはそれでも可）ならいいが、通し刺しにするには頭がないほうが断然手返しが早い。なのでアオイソメ同様ジャリメも頭を切って、濡らしたペーパータオルなどにくるんでおくことをおすすめする。頭を切ってもすぐには死なない（動いている）し、死んだとしても食いはそう変わらない。

▲相模湾でのエサはジャリメ  
▼頭をカットしたほうがエサは付けやすい

せんね」と船長。時どき釣れるヒイラギも濁り潮のときに釣れるゲストで、食いのいい日にはほとんど釣れない魚だという。アタリが遠くなり、カメラを首からぶら下げても手持ち無沙汰になったので、どんな感じかな？と私も竿を出してみることにする。キャストしてオモリを引きずっては止め、引きずっては止めてサビいてくると、クク



▲ソフトルアーを投げた人にもヒラメが

「もっと浅場にはピンギスが多い」というのも好材料で、ナギが続いた一週間前は50〜60尾台の釣果が続いていたことから、これから盛期へ向けて期待できそう。

**●船宿 information**  
相模湾茅ヶ崎港  
**ちがさき丸**  
☎0467-86-1157  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▲料金=シロギス乗合一人 8500円 (水付き)  
ジャリメ1バック 500円  
▶備考=予約乗合。7時出船。別船はタイ五目、ライト五目、アジ、フグなどへ